

## IRカジノ誘致と大型公共事業継続・呼び込み事業など安倍政権の横浜版予算編成

横浜市2020年度予算案の概要と評価 2月11日市民の市長をつくる会事務局長 菅野隆雄

### はじめに

1月29日林市長は2020年度予算案を発表しました。中期計画の折り返し予算で、IRカジノ誘致と大型公共事業継続・呼び込み事業の予算編成が特徴です。予算規模は全会計総額約3兆6060億円(対前年度比 2、7%)一般会計約1兆7400億円(対前年度比 1、2%)。市税収入は65億円増加とし、個人市民税は139億円増、法人市民税は116億円減です。歳出ではIRカジノ、高速道路・港湾整備の公共事業や大規模公園整備。子育て関係や公共施設の営繕などに大きな予算を振り分け、引き続きの国家戦略特区利用やPFI制度利用など安倍成長戦略の横浜版です。歳出の施設整備費は約2016億円となり不要不急の大型公共事業です。

### <各会計の予算規模>

会計名称	2019年度	2020年度	増減	増加率
一般会計	1兆7615億円	1兆7400億円	215億円	1、2%
特別会計	1兆3282億円	1兆2697億円	585億円	4、4%
公営企業会計	6152億円	5963億円	188億円	3、1%
総計	3兆7048億円	3兆6060億円	988億円	2、7%
(純計)	2兆9495億円	2兆9141億円	354億円	

(純計 会計間で相互にやり取りする重複を除いた全会計)

### 1 2020年度予算の概要

横浜市予算案の一番の特徴は公共事業などの「施設整備費」です、一般会計に占める割合は約11、5%2016億円(対前年度比470億円減)です、林市政の始めは1670億円でした。内容は大型公共事業です、国庫補助事業(728億円、昨年739億円)と市単独事業費(1288億円、昨年1747億円)の金額で国庫補助は変化なく市事業費は減額です、横浜環状道路南の建設など256億円、国際コンテナ戦略港湾や客船バース建設291億円や、山下ふ頭再整備事業に今年も67億円、カジノ誘致関係4億円、港湾整備35億円、さらに横浜駅改造推進事業や関内・関外地区の整備事業等に23億円です。こうしたことは一度始めれば止まらない公共事業の魔物として、事業費が膨らみ市債として後々の市民負担となります。各項目の主要事業について概括します。

#### <力強い経済成長と文科芸術創造都市の実現>

経済成長では引き続き企業誘致に29億円と「人材・企業・投資」を呼び込むとしています、競争力強化はMICE施設活用に22億円など国際会議の誘致を進めるとしています。市会や専門委員会などから批判もある「新たな劇場」計画に2億円は何が何でも推進の姿勢です。トリエンナーレの開催などは、開催の意義や内容など市民的合意も必要です、恒例化や慣例だけで開催することは問題があります。そして、ラグビーワールドカップの後年事業やオリンピック・パラリンピック事業に12億円などは、スポーツの進行と交流だけでなく企業誘致等の目的もあり趣旨と予算がアンバランスです。

中小企業への支援や小規模経営者の経営支援や後継者対策などは新規事業は見当たらず、訪日外国人との交流促進などで商店街の活成化を図るものになっています。

#### <花と緑あふれる環境先進都市>

花博開催を主要な事業として計画と予算の活用をしています。国際花博準備に5億円予算による全国的な誘致組織の立ち上げや、ガーデンネックレス開催などで市民の目を引き付ける事業になっています。

大規模公園の整備や改修に 151 億円としています。温暖化対策などは後退し、焼却工場の再整備などになっています。

#### < 超高齢社会への挑戦 >

特別養護老人ホームの整備は年間 600 人分の公募の継続( 昨年 16 億、32 億円計上 )がされています、市民の要望が強い地域医療充実については、医療連携の充実が求められます。

#### < 人が、企業が集い躍動するまちづくり >

市役所の移転に伴う関内・関外地区の再整備は当初の計画から違い大手開発企業による、大型開発の計画が発表されました。高層ビル建設や横浜武道館の開設に 36 億円です。横浜駅開発には 13 億円、I R カジノ 4 億円とし誘致に進んでいます。上瀬谷基地跡地利用など市民の意見を取り入れることもなく市民不在の開発計計画が出されました。市営住宅の建設や改善なども市民の要望は高くなっています。

#### < 未来を創る多様な人づくり >

保育関係は 2016 人分増の計画で「質の確保・向上に」としています。引き続き企業立保育園誘致・施設整備費補助や保育士給与補助の上乗せなども継続しています。放課後児童対策は「放課後キッズクラブ」への全校移行や学童保育への補助施策の改善等があります。小児医療費助成では所得制限緩和の準備としていますが緩和の内容などは市民意見の反映が必要です。中学校中食「ハマ弁」は今後の継続を前提として約 12 億円の予算計上です。小・中学校の体育館空調整備促進。教師負担の軽減等は「働き方改革」の掛け声だけで現場からの強い要求である増員はされていません、35 人学級などの教育制度充実が急がれます。

#### < 未来を創る強靱なとしづくり >

災害対策として「防災スピーカ」の整備が行われることになりました、浸水対策やがけ地対策もさらに強化しなければなりません。電柱の地中化あんども行われていきます。地域の防災対と合わせて、避難所の設備や備蓄内容の改善なども必要です。

## 2 市民要望に応えた予算になっているか

市民要望は「医療充実」「身近な交通機関整備」など日常生活を支える施策を望んでいます、予算の多くは高速道路や港湾整備に使われ、市民の反対が多いカジノ誘致に予算と人も付けるなど市民の要望とは反対になっています。これから市議会は審議が行われます、市民の暮らしを守り憲法が生きる横浜市政を作りましょう。

#### < 林市政の特徴的な項目の予算推移 > 単位・億円 (2014 年度は 2 期目予算)

予算項目	2014 年度	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度
待機児童	157	166	201	129	128	181	133
放課後	49	59	72	79	84	88	87
小児医療	78	80	91	100	100	105	95
特養ホー	17	30	22	36	16	29	36
企業誘致	17	31	31	27	27	22	25
高速道路	191	339	529	333	398	331	256
港湾建設	165	99	166	63	77	186	291
新庁舎		1,3	1,6	64	325	417	69
山下ふ頭		4	135	135	61	81	67
カジノ		0,1	0,1	0,1	0,1	0,1	4